

thanks! 感謝の声

ありがとうございますからお互い様の関係へ



阿部 博之さん

農工房では、新しい産業を構築することが、今の農業を取り巻く問題を解決できないかということでネギ栽培を始め、それが町内に広がり、今では「南三陸ねぎ」として売り出しています。

入谷地区中の町は被災していませんでしたが、遊休農地でした。遊休農地を再生する過酷なタイミングで来てもらったボランティアさんには申し訳なく、頭が下がる思いです。また、植え付けや収穫などの作業に関わってくれた皆さんに感謝ですね。そのお陰でネギが続けられるし、この町でネギが拡大して何とか産業になっています。我々だけではとても無理な話です。

実は、農工房にはファンがいます。同

じ人が継続的に来てくれます。結局そのつながりが、N.T.Tドコモさんと連携したICT活用による無農薬栽培だったり、各企業にとっても新しい取り組みにつながったりしています。大きい企業が個人の農家や漁師を直接相手にどうこうというのは中々難しいですね。その下地を作るきっかけがここになるのかなと思っています。こういったものがあつたら便利だねというお互いのやり取りが、会社の業務のプラスになってくれたら尚ありがたいですね。お互い様の関係。これまでは完全に支援を受ける側でしたが、これから先はお互い様の関係になって行ったほうがいいと思います。

思います。

感謝



佐藤 町長

「光陰矢のごとし」。早いもので東日本大震災の発災からまもなく7年が経過しようとしています。私たちは、南三陸町を家族のように思う全国、世界の皆さんからのご支援により、あの未曾有の大災害から立ち上がり、今日まで止まることなく歩みを進めてまいりました。皆さんからのご支援に對しましては、ありがとうございますと言ひ表せなほご感謝の気持ちでいっぱいです。

思い返せば、いち早くおにぎりを届けてくれた入谷地区や歌津地区高区の皆さん。毎日毎日、5〜6時間かけて早朝におにぎりを届けてくれた山形県庄内町の皆さん。まさに当時のおにぎりは「命をつなぐおにぎり」でありました。ま

た、海外からも温かい支援を頂戴しました。私は町民の皆さんが帰還するための3要素は、教育医療利便性と考慮しておりました。このような中で南三陸病院の再建に当たっては、台湾の皆さんから22億円ものご支援をいただきました。このような皆さんからのご支援を始めとするこれまでの復興のプロセスを次世代へと語り継いでいくことは我々の責務であると考えます。

復興期間も残すと3年となりました。皆さんからのご支援に込めるためにも必ずやこの3年間で「創造的復興」を実現すると、強い覚悟をもって挑み続けてまいります。



台湾紅十字社の寄附などにより建設した南三陸病院・総合ケアセンター南三陸



オーストラリア・ニュージーランド銀行からの寄附で建設した南三陸町図書館



ユニセフから寄贈された旧志津川保健センター



DFS グループプリミテッドや大沼柳子さんなどの寄附を受け建設した志津川保育所